



消費税増税の影響 ～消費者物価指数から～

日毎に秋も深まり、過ごしやすくなってきました。平成27年10月に、消費税率を10%に引き上げるかどうかについてのニュースがよく報道されていることから、気になる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで、平成26年4月の消費税率の引き上げでは、どの程度の物価上昇があったのかについて見てみたいと思います。

物価の動きを見るための統計の一つに消費者物価指数（以下CPI）があります。CPIは小売物価統計調査などで収集した価格をもとに作成されるもので、平成22年を基準（100）として変動を見ることにより、ものの価格の動きを把握することができます。図1ではCPIから値動きの激しい生鮮食品を除いたコアCPIの推移を表しています。これによると、平成26年4月のコアCPIは103.0となり、前月と比べて2.2%の上昇と大きく変動したことが見て取れます。

図1 生鮮を除く総合(全国)

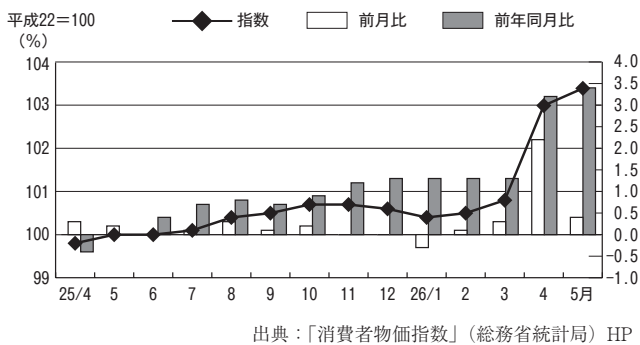
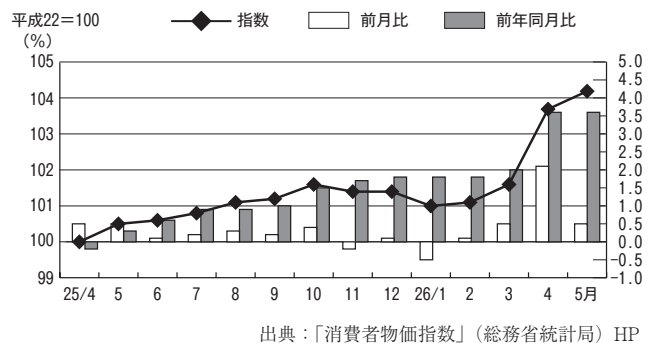


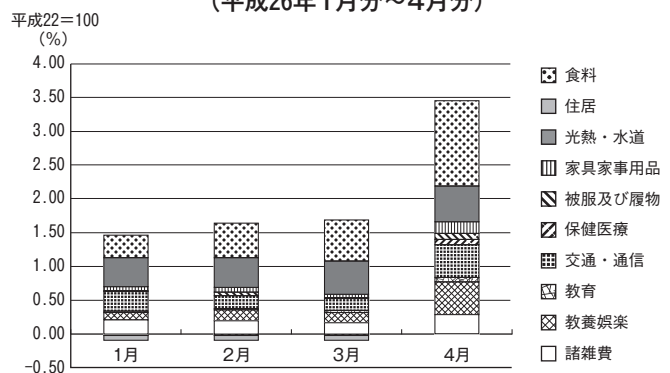
図2 生鮮を除く総合(京都市)



また図2の京都市においても全国と似通った動きになっています。ではどの様なものの価格が上昇したのでしょうか。

図3に平成26年1月から4月の前年同月比と比べた場合の上昇率の構成比（寄与度）を表しています。消費税率が引き上げられた平成26年4月は、食料や教養娯楽、交通・通信の上昇幅が他の費目に比べてより大きいことが読み取れます。

図3 総合指数(全国)の前年同月比に対する寄与度分解
(平成26年1月分～4月分)



平成27年10月に消費税率は上がるのでしょうか。動向が気になりますね。